

午後 I 試験

問 1

問 1 では、情報セキュリティインシデント対応状況の監査について、組織内 CSIRT の運用状況を題材として出題した。

設問 1 は、“情報技術の進歩”や“攻撃形態や方法の変化”に対応できなくなる可能性についての解答を求めたが、“イベントの検知漏れ”や“インシデントの判定誤り”のように、どのような種類のイベント又はインシデントかについて言及していない解答が散見された。与えられた情報を基に、問題点を過不足なくまとめる能力を身に付けてほしい。

設問 3 は、B 社 CSIRT に対する“変更の報告”及びそれに伴うインシデントハンドリングへの“影響の把握”を解答として求めたが、後者に言及した解答は少なかった。前者だけでは対策として不十分であることを認識してほしい。

問 2

問 2 では、システム統合プロジェクトにおける移行判定を題材に、中間移行判定後の監査と最終移行判定前の監査における目的、手続、指摘事項などについて出題した。

設問 2 は、移行判定の状況を確認するために、監査手続においてどのような資料を閲覧するかを問うた。しかし、問題文に示された判定結果の承認体制について、理解が不十分と考えられる解答が散見された。

設問 3 は、最終移行判定前の監査の目的を問うた。しかし、題意に沿わずに、判定基準と判定手続を取り違えた解答、監査目的と指摘事項が整合しない解答、監査のタイミングについて理解が不十分と考えられる解答などが多く、正答率は低かった。

設問 4 は、監査の指摘事項として、判定条件を満たしているかを確認するための判定手続を問うた。正答率は高かったが、判定根拠資料を明確に記述していない解答が散見された。

問 3

問 3 では、プロジェクト管理業務を含め、複数の委託先に開発を発注するプロジェクトを題材に、プロジェクト管理の監査について出題した。

設問 1 は、PM が他の業務を兼務している場合にプロジェクト管理業務を円滑に実施できているかを判断するための監査手続を問うた。“成果物に PM の承認があることを確認する”など、表 2 の監査要点に合致しない監査手続の解答が多くみられ、正答率は低かった。

設問 4 は、進行中のプロジェクトにおけるフォローアップの内容を問うた。正答率は高かったが、通常のプロジェクト管理状況に関する監査手続の解答も散見された。基本設計段階で判明した課題に対して、PM がどのようにプロジェクト管理業務を改善しているかについて、システム監査人がフォローアップすることの重要性を認識して解答してほしい。

設問 5 は、基本設計に遅れが生じているという背景記述から、システム監査人が確認すべき基本設計の計画段階での考慮事項を問うた。計画についてではなく、“引継ぎが実施されたか”といった、事実についての確認事項を記述した解答が多く見られた。